



PRESS RELEASE

2015年3月2日

大熊町出身の福島大学4年生 第3回国連防災世界会議 in 仙台 本会議場「イグナイト・ステージ」に登場

3月14日～17日まで仙台で開催される第3回国連防災世界会議の本会議場に設けられる特設会場、イグナイト・ステージ(Ignite Stage)に大熊町出身の福島大学4年生、高橋恵子さんが登場します。

イグナイト・ステージは、国連防災世界会議の参加者が災害リスク軽減(DRR)のプロジェクトや事業について、一団体あたり15分間発表できる特別な場です。メイン・セッションやイベントで議論される内容を越えて、議論に幅を持たせるために企画されています。

高橋さんが登壇するのは、100団体以上の日本のCSO(市民社会組織)が参加する市民ネットワーク「2015 防災世界会議日本CSOネットワーク(以下、JCC2015)」による、「コミュニティに根差した原子力緊急事態へのDRRアプローチ」と題する発表です。JCC2015では、東日本大震災および福島第一原発事故を経験した被災者自身が、自らの経験に基づき、災害リスクを軽減するための具体的な方法を語ることで、将来的に世界のどこかで発生する類似災害への対処に役立つと考え、この発表を企画しました。

高橋さんは「岩手県からの被災者代表1名とともに、震災・原発事故後の自らの経験を振り返り、4年たった今思うことを訴えたい」と話します。

イグナイト・ステージのすべてのプレゼンテーションはビデオに録画され、国連防災世界会議のウェブサイト、UNISDRのYouTubeチャンネルと、国連国際防災戦略事務局(UNISDR)が運営するウェブサイト「PreventionWeb」に掲載されます。過去のイグナイト・ステージのプレゼンテーションは以下のURLから見るすることができます。

<http://www.preventionweb.net/globalplatform/2013/programme/ignitestage>

● 高橋恵子さんが発表する日時・場所等

日時：2015年3月17日(火)10:00～10:15

場所：仙台国際センター2F ホワイエ(仙台市青葉区青葉山無番地)

発表団体名：2015 防災世界会議日本CSOネットワーク(JCC2015)

発表団体英語名：Japan CSO Coalition for 2015WCDRR

発表タイトル：コミュニティに根差した原子力緊急事態へのDRR(災害リスク軽減)アプローチ

英語タイトル：Community based DRR approach to nuclear emergencies

● 高橋恵子さんについて

大熊町出身の22歳。福島大学行政政策学類をこの3月に卒業し、4月から同大学大学院に入学が決まっています。原発事故発生時は高校生で、両親、祖父母、妹とともに福島第一原発から5キロの自宅にいました。その後、家族とともに親戚を頼って山梨県へ避難。進学がきまっていた福島大学へ入学するため、同年5月から福島市へ。家族はいわき市で暮らしています。マーシャル諸島の水爆実験被災者との交流プログラムに参加するなど、自身の被災経験を海外の人々に積極的に伝えようとしています。

● 「2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク(JCC2015)」とは

JCC2015 は、「セカイと学ぼう。市民のための防災会議へ！」を合言葉に、東日本大震災の東北で活動した NGO/NPO など 100 団体以上が集まる CSO(市民社会組織)のネットワークです。第 3 回国連防災世界会議 NGO 公式開催パートナーとして、政府間準備会合や国内での準備会合に参加し準備を進めています。

【 設 立 】 2014 年 1 月 10 日

【参加団体】 日本の CSO 104 団体(2015 年 2 月時点)

【共同代表】 大橋正明(上記)、堂本暁子(男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表/元千葉県知事)

【事務局】 国際協力 NGO センター/CWS Japan/ピースポート災害ボランティアセンター
せんだい・みやぎ NPO センター/ふくしま地球市民発信所

【 WEB 】 <http://jcc2015.net/>

● このリリースに関するお問い合わせは、

「2015 防災世界会議日本 CSO ネットワーク(JCC2015)」共同事務局ふくしま地球市民発信所

TEL. 024-573-1470 携帯. 080-4208-0318(藤岡) MAIL. info@fukushimabeacon.net